

豊中中学校
豊中高等学校

豊剣会

豊中中学校・高校剣道部 OB・OG 会
創部百周年記念誌

豊剣杯争奪剣道大会 百周年記念祝賀会



豊中中学校
豊中高等学校

豊剣会

豊中中学校・高校剣道部 OB・OG 会

創部百周年記念誌

豊剣杯争奪剣道大会 百周年記念祝賀会

豊中中学・高校剣道部 OB・OG 会

創部百周年記念誌

豊剣杯争奪剣道大会 百周年記念祝賀会

目次

会長挨拶

豊剣会会長 大芝 信雄 02

豊剣杯争奪剣道大会

04

百周年記念祝賀会

文 太田 哲也 高校33期 06

百周年記念寄稿文

10

(敬称・期略)

今西 春禎
並河 徹也
小瀬戸 由起子
世古 信三
石塚 佳久
矢倉 雄太
田中 裕二郎

大芝 利文
加藤 芳哉
大賀 修治
新居 健司
馬淵 敦士
高田 裕文

松村 栄太郎
島村 宏二
太田 哲也
曾和 昭文
高林 充祥
池内 遼太郎

北摂大会優勝について

文 島村 宏二 高校30期 28

豊中中学校・高等学校剣道部発展年表

30



豊剣会の皆様には色々ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。この三年間はコロナの影響で豊剣杯争奪戦並びに懇親会は中止となりましたが、今年は3月25日(土)、創部百周年記念行事と相まってこの争奪戦と稽古会そして祝賀会の形での懇親会も再開することができました。大変喜ばしいことでした。

この日の行事では、前半は豊剣杯争奪戦・稽古会が行われ、園山先生、上林先生、田中先生(67期) 豊剣会は大芝利文先輩(13期)から若手まで、そして現役生徒と40名ほど集まりました。

まずは12時30分に準備体操、軽い稽古で体ほぐしてから、豊剣杯争奪戦が開始され、皆さん優勝を目指して、熱戦が繰り広げられました。その結果、優勝は福田さん(32期)と神原君(75期)、和田さん(77期)、準優勝は小瀬戸さん(30期)と後藤君(75期)、瀬戸君(76期)、3位は並河さん(29期)と若手二人、&鳴田さん(69期)と若手二人でした。60歳代の皆さんまさしく剣道は現役でした。その後の稽古は40分くらい、OB・OGと現役で普段やらない相手とできたと思います。

17時からホテルアイボリーに場所を移し祝賀会が行われ、園山先生、高田先生(20期)と10期の牧野先輩を筆頭に32名が集まり、皆さん久々に顔をあわされた方もあり和やかな楽しい会となりました。

さて、剣道部創部は1922年(大正11年)です。

昭和初めの中学時代は有段者が百数十名もあり、昭和5年大阪府大会で優勝の実績もある剣道強豪校だったとのことです。

戦後は昭和27年に7期の今西先輩が1年生の時岡本先生に相談され、数名(しかも一年生のみ)を集めて撓競技(当時剣道はまだ復活していません)の同好会が発足されて、戦後剣道部の再開となりました。

当時、井坂先生もおられました。稽古指導はモッパラ岡本先生で非常に厳しくしごかれたことは今西先輩が60年史に詳しく書かれておられます。

私の時の顧問は、井坂先生、奥田先生でした(当時、女子ハンドボールが大阪府で優勝するほど強く、岡本先生はその指導に専念され、私の記憶では岡本先生が防具を着けた姿は1~2回しかありませんでした。丸岡先生も確か剣道式段でしたが、稽古は一度もされた記憶がありません)。

稽古で井坂先生には竹刀が全く体に触れず、自然に掛かり稽古になってしまうほどメチャクチャ強い先生でした。私はその後関学剣道部に入り、先生は関学の師範でもありましたので七年間はみっちり扱われましたが、おかげで今日の剣道の基を造って頂き感謝々々の気持ちで一杯です。奥田先生は全く剣道はなされないのですが、試合には必ず熱心に応援に来て頂き、いつも最後までおられました。

なお、川上先生は当時 PL 学園の先生で指導されていました。7期以降は部員の増減もありましたが今の現役まで比較的安定した人数で推移しています。また喜ばしいことに、卒業後の剣道を続ける方も増え、特に若手が増えています。

そして以前は高段者は殆どいませんでしたが、今は七段で並河さん(29期)、世古さん(34期)、石塚さん(43期)。六段は小瀬戸嬢さん(30期)、石橋さん(30期)、福田さん(32期)、小松さん(33期)、友井さん(38期)と増え、予備軍も結構いて頼もしい状況です。

現在、ありがたいことに上林先生、田中先生の二人で現役の指導にあたっておられます。おかげで、最近では北摂大会団体戦の優勝、大阪府大会個人戦(近畿大会予選)で75期神原康佑さんが3位となり近畿大会に出場し、等々いい戦績を残しています。

コロナが少し収まり、夏には3年ぶりに合宿が再開されました。その上先生方の連携が大変良く、豊高の他、三島、教育大附属池田、千里青雲、槻ノ木、箕面と今までにない始めて6高での合同合宿が開催できました。また各高校から先生は全員参加でしたが、私の存じあげている方々は、豊高上林さん、田中さん、教育大附高池内さん(以前、豊高教員)、三島安良田さん(64期)、古岡さん(天王寺高出身)の常連が参加されました。

場所はいつもの大峰山麓、洞川温泉近くの天川川合で、本当に田舎で剣道をやるしかない合宿にはもってこいの環境でしたが、稽古後夜は反省会と称していつも痛飲し、合宿が終わった最後の日には先生方と温泉に浸かって帰りました。今後は皆さんも是非参加頂き痛飲をしましょう。また最近土曜日には、並河さん他、若手の田村さん(63期)、西村さん(63期)らOBが稽古に参加されています。こちらへも宜しくお願い致します。

豊剣会が更に充実したいい会になるよう皆様のご支援を宜しくお願い致します。



2009年 八段昇段祝賀会



2016年5月5日 京都武徳殿にて八段の立会



2009年 八段昇段記念稽古会

心己克

豊剣杯争奪剣道大会

豊中高校柔剣道場

11:00~16:30

新 型コロナ流行により豊剣杯は4年ぶりの開催でしたが事務局の不安をよそに予想以上の人数が集まり、中でも63期福田尚毅さん・未咲さん夫妻、石井宏和さん、小林祐太さん、65期中西麻里さんは将来剣士になるであろう？お子様を連れて応援に来てくれる等、いつも以上に和気あいあいとしたムードの大会となりました。

試合は即席の3人編成(現役・若手OB・かなりOB)で9チームに分かれ、3分間3本勝負、男女が対戦する場合は女子に1本先取のハンデ付き特別ルール。予選リーグ勝者に大芝会長推薦チームを加えた4チームによる決勝トーナメントを行い、熱戦が繰り広げられました。

豊剣杯の後で行われた現役対OBのエキシビションでは72、73期部員ゼロという存続の危機を乗り越え、剣道部完全復活を実感。現顧問の上林卓也先生と田中裕二郎先生のご尽力には感謝しかありません。表彰式では入賞チームに大芝会長より賞品が授与され、新たに会員となる卒業生には豊剣会オフィシャル面手拭および竹刀、現役部員には竹刀が贈呈されました。



現役対OB戦・団体戦結果

先鋒	余彦皓	76期	メメ	藤田航	75期	○
次鋒	兵藤樹	76期	引分け	藤野大祐	69期	
中堅	瀬戸裕太	76期	引分け	田村浩輝	63期	
副将	坂本留唯	76期	メコ	元田憲大	68期	○
大将	古田翔一	76期	メ 引分け メ	神原康佑	75期	

優勝	I チーム	和田天音	77期	神原康佑	75期	福田和弘	32期
準優勝	A チーム	瀬戸裕太	76期	後藤陵来	75期	小瀬戸由起子	30期
3 位	C チーム	坂本留唯	76期	橋本和岳	75期	鳴田千晶	69期
3 位	F チーム	山下泰麒	77期	元田憲大	68期	並河徹也	29期
	B チーム	古田翔一	76期	岡本春樹	74期	西村友佑	63期
	D チーム	余彦皓	76期	山本恭栄	74期	藤野大祐	69期
	E チーム	兵藤樹	76期	合田駿希	74期	大濱美遥	67期
	G チーム	白田紗優	77期	田村浩輝	63期	太田哲也	33期
	H チーム	神原優那	77期	藤田航	75期	田中裕二郎	67期

大濱美遥67期に対し大芝会長より敢闘賞が贈られました。(敬称略)



百周年記念祝賀会

ホテルアイボリー
オーキッドホール

17:30~19:30

祝 賀会は場所をホテルアイボリーに移し、高10期から74期まで32名のOB・OGが集まりました。29期並河徹也事務局長の司会進行により、まずは18期松村栄太郎氏の乾杯のご発声により宴会スタート。大芝信雄会長のご挨拶から園山哲夫元顧問のご祝辞と続き、前事務局長の20期高田裕文氏、今回OB最年長の10期牧野芳治氏、亡き先輩方の思い出を偲ばれた30期島村宏二氏、北摂大会優勝秘話をご披露いただいた35期新居健司氏、最年少74期の諸氏、OGからは2代目マネージャーの17期松尾信子氏、全日本女子学生や全国家庭婦人剣道大会で大阪代表として活躍された29期西岡尋子氏、還暦を過ぎて稽古を再開し昨年六段に昇段された30期小瀬戸由起子氏、勤務先の米国から遠路はるばる帰省して参加してくれた68期山地理沙氏らからいろいろ楽しいスピーチをいただき、宴たけなわの中、29期加藤芳哉氏の指揮により全員で校歌を斉唱、再会を約束して19時30分閉会となりました。



百周年記念式典

出席者

元顧問 園山哲夫先生

10期 牧野芳治

16期 大芝信雄(豊剣会会長)

17期 松尾信子

18期 松村栄太郎

20期 高田裕文(元顧問・前豊剣会事務局長)

29期 西岡尋子 加藤芳哉 並河徹也(豊剣会事務局長)

30期 島村宏二 小瀬戸由起子

32期 福田和弘 砂川陽子

33期 太田哲也 浅野潤子 井角江美子

35期 新居健司

46期 渡部義久

60期 矢倉雄太

63期 田村浩輝

66期 高嶋勇

67期 大濱美遥

68期 山地理沙 西川安寿子

69期 阪中博紀 藤野大祐 入澤奈都 鳴田千品 橋本佳奈

74期 合田駿希 岡本春樹 山本恭栄

(以上32名・敬称略)



戦後、豊高剣道部の復活(創部)の思い出

今西 春禎

高校7期



私が豊高に入学したのは昭和27年(1952年)4月のことである。私は最初アメリカンタッチフットボール部に入って続けるつもりであったが、キャプテン(当時の正木という先輩)と馬が合わず、すぐに辞めてしまった。その後、何か適当なクラブがないかと思っていたが、自分に向きそうな体育会系クラブは無いので、工芸部に入って、好きな模型飛行機などを作っていた。5月頃になり、体育の岡本先生から声をかけられ、どういったきっかけか知らないが、今度、新しい競技という剣道のような新しいものを取り入れたいと思う。ついては、運動部として立ち上げるので君がやるのならメンバーを集めてこい、と言われた。なぜ、私に声がかかったのかわからない。まだ内容もわからないながら、先生から直接話が有ったので、わかりましたということになり、新1年生の友人(仲間といっても互いによく知らない間柄の友人)に声をかけて、先生の話伝えていった。最初の条件で、体育会系クラブ登録するにはメンバーを最低10名そろえること、顧問や活動する場所(条件や道具類)がそろっているかどうかなどを書いて提出しろといわれた。確か5月ごろと思うが、クラブに承認するかどうかは、秋の体育部総会で検討されるとのことであった。それまでは自由な同好会として予算も何にもない、勝手な集まりであるとのことで、ちょっとがっかりしたが、体育の先生が顧問であるから必ずいけると思った。とにかく、身近な友人に声をかけていった結果、最初に水原、加藤、土肥の3名と自分のあわせて4名が意思を固めた。他が集まらなないと、とにかく所定のメンバーが出来ないので、10人の名前を揃えるのにちょっと苦心した。他に、先生の条件としては新1年生だけのメンバーとせよとのことであった。2年3年の上級生は教えてもすぐに辞めるから駄目だとのことで、上級生から2名ほど希望者がいたが、何か口実をつけて断ったものであった。先生は徹底的に仕込んで強いチームを作ることが目的であったのだ。これは正解であった。岡本先生は、ハンドボールの全日本代表選手(当時現役)で、剣道も4段の現役バリバリであったと。とにかく、このような形で戦後禁止されていた剣道が復活の芽を吹き始めたのであった。その後、府下の大会に出場しながらだんだんと勝手も覚えて、皆試合のおもしろさに引き込まれていった。ただ、稽古は人数が少ないうえに道場がない、先生の指導は厳しい(剣道は他のスポーツと違い負けるということは死ぬということや、と先生の指導は実にきつい稽古であったと)。しないは袋しないで柔らかいものであったが、ビシャビシャしばかれた。我々のしないは稽古1週間でダメになった。今から思えば、ウソのような現実であった。最初のメンバーは変わらず、みなこの競技にのめりこんだのは良かった。そして、府下の大会では、何回も優勝を重ねた。秋には新しい競技部として体育会登録することになり、キャプテンにだれがなるかということで、皆は声をかけた今西がやれと言ったが、自分は部のまとめ役として最初のいきさつもあるからマネージャーをすと言い、かわりに辻一郎をキャプテンにした。これで、一応、体育会部の登録メンバーがそろった。今ではウソのような話だが、

そんな実情であった。そして秋の体育会の総会で新しいクラブとして承認され、来年度から予算が付くこととなった。その後、府下大会では出場ごとに優勝を重ねて周囲は色々とやかく言うやつらもいたが、実績を重ねて周囲も認めるようになった。同輩たちは、皆負けん気が強く人が負けても俺は勝つのだという気持ちが強かったので、稽古も皆一生懸命であった。自分は高校から大学と7年間しない競技から剣道を続けたが、豊高での岡本先生の指導で試合への考え方や意気込みなど大いに基本が身についたことは、何よりも良かったと思っている。今ではもうお互いに競った仲間もいなくなり寂しい限りであるが、これからの若い人たちが次代を作って繋いでくれることを切望するものである。ちょっと不確かであるが、体育会クラブ登録のメンバーとして、我々5人の他に奥、斎藤、浜田、宮西がいた。他にもう一人誰を入れたか忘れた。わたしは豊高剣道部100年の歴史に拙文を残せることを幸せに思うものである。



1995年3月豊中高校会議室で行われた懇親会写真中は中学19期谷口真澄氏



1995年3月第1回杯争奪会にて披露された古武道演武

豊中剣友会と豊剣会

大芝 利文

高校13期



豊中高校一年と二年時に豊中市民大会で2年連続で個人優勝をして、出場される先輩方や審判を務められる先輩方を見て、豊中剣友会と豊剣会を意識するようになりました。

関西学院大学に進学し、剣道部に入部して一番驚いたのは、豊中高校の井坂賢一郎先生が同部の師範をされていたことでした。大学では部内の稽古以外に部外稽古があり、先生の関係で曾根崎警察署、大鉄剣道場によく出かけ、そこでも豊剣会の先輩方を含む豊中剣友会の方々がよく来られ、稽古をさせて頂きました。又、夏の合宿にも来て頂き、横田武先輩（中18回）、谷口真澄先輩（中19回）、豊田俊一先輩（中21回）、佐藤功先輩（中22回）等ともよく剣を交え教えて頂きました。大学を卒業して暫く社会人剣道に励んでいた頃、呼びがあり、時たま豊中剣友会の稽古のお手伝いをさせて頂き、少しは御恩返しができたのではないかと思います。

中務秀夫先輩（中7回）が中心となり「豊中中学、高校 剣道六十年史」と題する記念誌が編纂され、昭和56年（1981）に発行されました。当時、編集委員の一人として参画、先輩のお宅にお邪魔してお話をお伺いしたことや、戦後の豊高剣道部の諸活動の変遷を纏めるのに力を注がれた今西春禎先輩（高7期）宅に集まり、議論を交した事など、懐かしい思い出です。

「剣道六十年史」が発行されて以降、OB会である「豊剣会」もまとまりを見せ、中務秀夫先輩が初代会長を長く務められ、平成元年（1989）にはOB年会報「豊剣会だより」を発刊、その後、西村淳一先輩（中14回）が第二代会長にご就任、平成7年（1994）から総会時に「豊剣杯争奪大会」が開催され、現在までも続いていることは、諸先輩方のご尽力の賜物であると思います。

このように、豊中高校剣道部を通じ、「豊中剣友会」並びに「豊剣会」で多くの先輩方と交わることができましたことは、私にとって大きな財産でもあります。



【写真左】1961年(昭和36年)11月 信雄氏が高校一年、利文氏が大学一年生。剣道3段合格の時の写真

【写真右】2009年(平成21年)関学大有志による信雄氏の八段昇格祝賀会で祝辞を述べている利文氏(左)

思ふこと

松村 栄太郎

高校18期



我々団塊世代一期生の高校時代から、半世紀余りが過ぎました。

「お早うございます。」「お早う。」私は中高の6年間、賄い付きの下宿生でしたが、毎朝登校時、後部に防具を乗せた顧問の井坂先生の白いスクーターが、傍らを通り過ぎていきました。もう一人の顧問は、敬愛の意を込めた愛称ロクロッ首の奥田先生でした。先生は豊中一回生であり、私の高一時の担任でもありました。

二年弱の部活でしたが、薙刀部と道場を共同使用の為、週四、五日の稽古でした。合宿はありません。高二十七期故西崎女史らから女性の入部が始まった様ですが、女性部員はいません。故西崎さんから、当時の井坂先生との遣り取りを面白く聞かせて頂いた事もあります。対外試合は、豊中市民大会、高校総体予選、北摂学校剣道大会。以外に、池田高校と対抗試合をやった事を覚えています。詰る所あまり明瞭な記憶はありません。

三十年程前の事です、年の瀬に初めて中十九回谷口先生から電話を頂き、翌年正月アイボリーでの豊剣会会合に初めて参加しました。当時、大先輩である中十回生を中心とした集まりでしたが、酌み交わしながら色々な事を感じ得させて頂きました。

十代二十代は、疾風怒濤の時代です。現剣道部員の生徒達も、さぞ煩悶しながら日々をおくっている事でしょう。

今後とも、ささやかな一助を続けたいと思っています。



2014年3月杯争奪会受付にて

生涯剣道を通して人との出会い

並河 徹也

高校29期



ほかのメンバーと協力して微力ながら豊剣会に貢献したいと思ひまして、昨年から事務局を引き受けました。今は仕事をリタイアし、芦屋と箕面で剣道をしたり、豊中の実家の庭掃除をして日々、過ごしています。

剣道を始めたのは小学4年の時、豊中大池小学校で横田武（中18期）、谷口真澄（中19期）両先生に基本を習い、試合に付き添っていただいたり、大変お世話になりました。当時、豊中市剣道協会には、憧れの井坂賢一郎先生をはじめ豊剣会会長を務めた中務秀夫（中7期）、西村淳一（中14期）、豊田俊一（中21期）各先生方がおられました。尊敬する豊中中学出身の剣士の先生方が沢山いらっしゃったのでいつしか「豊高で剣道をする事」が目標になりました。

豊高時代は、稽古中は厳しく、終わると和気あいあいといった雰囲気の中、ユニークな仲間達と過ごした部活は充実したものでした。試合会場に入ると秋山君が竹刀袋からバットを取り出し、皆んなで素振り(?)をしました。その甲斐あってか緊張がほぐれ、本番では実力以上の力を発揮し、男子の戦績は、府下新人戦団体ベスト8やインターハイ予選個人ベスト8など、まずまず。女子の戦績は男子よりもっと良かったと思います。

大学では剣道部に入部せず、関東で過ごした20代と30代は殆ど竹刀を握らなかったため昇段は遅れました。38歳の時、仕事で関西に戻ってからはなんとか定期的に稽古を続ける事が出来、63歳の時、七段に昇段しました。剣道を通してこれまで出会った人達には大変感謝しています。

最後に、昨年から芦剣の他に、福田和弘氏（高32期）や高嶋勇氏（高66期）も所属する箕面剣友会に入会し、週に3～4回稽古をしています。これからも「一期一会」を大切にして「生涯剣道」を楽しみたいと思います。



箕面市武道館にて

豊中・豊高剣道部創部 百周年を祝して

加藤 芳哉

高校29期



豊中中学・豊中高校剣道部が創部百周年の佳節を迎えられましたことに、心よりお慶び申し上げますと共に、今日まで剣道部の運営発展にご尽力下さいました歴代の顧問の先生方、豊剣会の大芝会長様をはじめ歴代の会長様、歴代の役員・事務局の皆様方には、心から敬意と感謝を申し上げます。

顧みますれば、豊高に入学し、剣道部に入部した際、中学校の剣道大会で数々の好成績を収めていた同期の並河君・森重君をはじめ、精鋭揃いの錚々たる剣士達が豊高剣道部の同志となり、とても心強く、期待に胸を膨らませていました。「女子薙刀部」と同じ道場での練習試合、夏の合宿での酷暑の中での汗にまみれての「円陣稽古」をはじめ、厳しい稽古が思い出され、また箕面高校との練習試合の為に、豊高から箕面高校迄、往復ランニングで行き来した思い出が心に強く残っています。

また、数々の対外試合の中で、今でも鮮明に覚えている記憶に残る試合として、全国高等学校剣道大会大阪府予選で、豊高二十九期と三十期の剣道部員が中心となって、優勝候補の『PL学園高等学校剣道部』と対戦し、同点で迎えた大将戦で、大将の並河君の「小手抜き面」が決まって、勝利したと思いましたが、何と対戦相手(PL学園の大将)の空振りした「小手」に審判の旗が上がり、大変悔しかった事が思い出されます。(因みに対戦相手の「PL学園」は、その後、全国優勝されました。) 対外試合に臨む際は、必ず剣道の竹刀袋に野球のバットを入れて持参し、試合前に気合を入れる為、また緊張感をほぐす為に、試合に臨む部員全員が交互にバットを振り、それが不思議と好成績につながりました。

当時一緒に汗を流した豊高二十九期と三十期の剣道部員は、卒業後も現在に至る迄、親睦交流を深めています。

最後になりましたが、私が園長を務めています「服部幼稚園」の初代剣道講師で、豊中高校では国語と漢文の先生をされ、剣道師範も務められました「井坂賢一郎先生」の『道場訓』を、現在も服部幼稚園の剣道正課の時間に、園児達が唱和していますので申し添えます。

『道場訓』

- 一、礼儀正しく健やかであること
- 一、言葉づかいは、はっきりとていねいであること
- 一、整理整頓に心がけ、持ち物に名前を書くこと
- 一、きまりを守り、休まずに稽古に通うこと
- 一、お互いが尊敬し合い、立派な人間になるように心がけること

結びに、豊剣会会員の皆様方のご健勝とご活躍、豊剣会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

合宿日誌 ～幾つかの言葉から～

島村 宏二

高校30期



午後。稽古の目的を理論的に理解して取り組むために、言葉による解説も多く試みた。指導に来てくださっていたある先輩は「剣道は理屈ちゃうぞ…」と仰ったけれど。

夕刻。皆で銭湯へ（私たちの時代の合宿は校内合宿）。T シャツ短パンにビーサン履きや、揃いのチームジャージで行く他の部を横目に、剣道部は制服着用の上、足元まで暑苦しいローファーやスニーカー。この馬鹿馬鹿しい姿に、顧問の北坂先生（※）が見かねて、「せめて履き物くらいはサンダルでも良いのどちらがうの？」と言ってくさったが、それに対して返した言葉は、「いいえ、心得で決まっていますから。」

夜半前。思いのほか1年生の指導のために多くの時間を費やし、自分たちのための稽古の時間が十分には取れていないという課題を感じ、消灯後、教室内に1年生だけを就寝させて、廊下で2年生男子だけ（違う階の女子を呼ぶことは流石に憚られたので）で急遽ミーティング。そこへ生徒指導担当の先生。事情を話すと、「しっかり予定を立てておけば、そういうことにはならないのではないか…」と、型どおりの初太刀。「予定はあくまでも予定であって、実際には予定通りにはいかないこともあります」と返すと、「消灯、就寝、睡眠は、翌日の健康と安全のため」と、反論の余地のない二の太刀。最後の返しは、「解りました。それでは明日の起床時刻を遅らせます。」

翌朝。起床時刻に起きようとする1年生に「構わん、寝とけ。」不審に思って呼びに来た女子にも「構わん、寝とけ。」やがて響く、北坂先生の怒声…「剣道部、いつまで寝ている！起きんか！」…事情を説明することをせず、黙って朝の練習メニュー（ウォーキングかランニングと体操程度のものだったか…）を始めた。恐らくものすごく不機嫌な顔で。

夜。ミーティングで、前夜来の独断専行の経過を説明した。北坂先生は、恐らく、顧問を蔑ろにした主将の許しがたい非礼に対する憤然たる思いを飲み込んで、抑えた口調で、適切なタイミングで説明責任を果たさなかった誤りをのみ、正してくださった。部員の皆は困惑するばかりであったことだろう。

合宿中のいくつかの出来事や、その時にやり取りした言葉、飲み込んだ言葉を、未だに鮮明に記憶している。そして、思い出すたび、理屈っぽく、融通が利かず、独り善がりな、「俺が豊高剣道部を背負っている」と言って憚らない、不遜な態度で思い上がっていた主将を、実は逆に支えてくれていた同期の皆のお蔭というものに、今更ながらではあるけれど、思いを致している。みんな、あの頃は、ありがとうね！

保健体育科 北坂美智子先生

昭和51年4月（園山哲夫先生ご着任の1年前で、奥田幾次郎先生がご退職されたとき）、顧問を請けてくださるよう主将の私も直にお願いに上がったところ、ご快諾いただき、薙刀部を指導される傍ら、我々剣道部の顧問をも務めてくださった恩師。

高校卒業後の剣道歴と私の夢

小瀬戸 由起子

高校30期



私は高校卒業後、同志社大学に入学し、体育会剣道部に入り剣道を続けました。ここは剣道の技術や精神を鍛錬し磨き上げた剣士の集団で、大変貴重な経験ができました。入部すぐの稽古では「剣道の美の世界」に心が震え「私もあのような正しく美しく強い剣道ができるようになりたい!」と強く願ったものです。またその年に、応援のために初めて日本武道館へ行った際、先輩や同期の選手がドンドン勝ち抜く輝かしい姿を目にしたことで「私も一度でいいから、日本武道館で試合がしたい!」という気持ちが芽生え、ついには「私の夢」となりました。決勝戦で、会場の照明がさらに明るくパツ!!とつき、ダイヤモンドのようにキラキラと光り輝いた試合会場の映像は、40年以上過ぎた今でも私の頭から離れません。残念ながら、大学での私の結果は、京都大会では優勝があったものの、全関西大会ではベスト8、敗者復活戦で負け、あと一步というところで夢に届かず終わってしまいました。その後は地元の箕面剣友会で27歳までお世話になり、五段は取得しましたが、夢は果たせぬままとなり、その後は仕事にのめり込み剣道から全く離れた人生となりました。

ところが退職後、なんとなんと33年振り60歳から、東京都の港区スポーツセンター定期練習会で再開することとなりました。きっかけは、健康上のことです。ただ稽古を始めた時は非常に大変でした。イメージは20代の剣道、身体はもう60歳。それまで剣道の勉強から遠のいていた上、退職前15年間の運動不足と車生活に加え、睡眠不足と外食生活が、身体をポンコツにできてしまっていたのです。そこで、一から正しい基本をご指導頂ける先生を見つける、一から自分で勉強する、身体を健康にして筋力をつけることが、私の大きな課題となりました。

そんな折、幸せなことに素晴らしい先生と出会い、週2回、腰椎脊柱管狭窄症が原因の足先半分の痺れと闘いながら(かなり辛いものです)も稽古を続けております。先生の口癖は「正しい基本打突を身につける稽古を積み重ねなければ、正しい美しい強い剣道はできません。足捌きができないで冴えのある打突はできません。基本に則した打突、美しい打突、感動できる打突を目標に基本稽古に励みましょう」です。お陰様で令和4年8月に六段昇段審査に合格、10月には東京都のシニア健康スポーツフェスティバル剣道大会で準優勝するに至りました。思ってもみなかったことです。また先生のお好きな言葉は「剣縁無上」です。「未来は善き縁で開かれる」と広く人(老若男女、外国籍の剣士も)と繋がっておられるお姿を拝し、私も剣縁を大事にして生きていきたい思いで一杯です。

私が今あるのは、高校時代があり、周りの方々のお陰だと心から感謝しております。今後も何歳になっても身体が続く限り、夢に向かって剣道を続けて参ります。

高校3 2期生の近況等

大賀 修治

高校32期



豊中中・豊中高剣道部が100周年を迎えたことに感激するとともに、そのうちの3年間に私どもも在籍しましたことを誇りに思います。また、2021年度は32期生が還暦を迎えた年でもあり、大きな節目を続けて迎えたことに御縁も感じます。

私どもの学年は、1つ上下の先輩・後輩に比べ戦績が伴わず、夏合宿実施条件(府大会で個人団体問わず2回戦勝)をクリアするのが精一杯でしたが、その分(?)男女ともに仲はよく、卒業後もコロナ禍までは同期会もよく開いていました。最近も江畠主宰でZOOM飲みを行っています。今回の寄稿に当たっても、同期の皆さんにいろいろとライン取材ができ、そこでの情報を基に近況等を綴っていきたいと思います。

まず、現在も剣道を続けているのは二人(小松、福田)で共に錬士六段です。また、孫がいるのも二人(石橋、大賀)で共に上が6歳くらいです。

今も大阪府民でいるのは7人で、そのうちの5人は豊中市に住まいしており、中でも川村と砂川は豊高から徒歩10分程です(別々の住所です。念のため…)。一方で北海道(立花)、カナダ・モントリオール(和田)に住んでいる者もあり、卒業後の時の流れをこういうところでも感じます。時の流れと言え、石橋のそこはお嬢さんも豊高卒です。さらに続いて三代となると凄いですよね。

閑話休題、今回の取材に託けてライン上ではいろいろな昔話で盛り上がりました。例えば、インハイ予選当日朝に道着を学校に忘れてきたことに気づいて、朝から学校に忍び込んだことがある…とか、1年1学期のランニングのゴールは箕面の滝まで行ったか、勝尾寺だったか…とか、夏合宿でオナラに火をつけた…とかとか。また年相応に、コレステロールがどうか腰が痛いとか…。幸い同期に医者が二人いるので、適切な(?)アドバイスももらっています。

最後に余談ですが…

- 1 立花の愛犬がつい最近TVデビュー。それもEテレ。
- 2 高校卒業後のほんの一時期、三村と大賀は同じ店でバイトしていた。
- 3 砂川はある韓流スターのファンクラブの日本支部長

まだまだありますが、紙面の都合で続きは次回とします。

また皆で集まれる機会を見つけ、40代半ばで鬼籍に入った朽木を偲びつつ、昔のこと、今のことで盛り上がりたと思います。それにしても…、改めて健康第一と感じる今日この頃です。

令和4年霜月 光華女子学園事務室にて

豊高剣道とのご縁と思い出

太田 哲也

高校33期



私が中学3年だった昭和52年の夏、インターハイ個人・団体を完全制覇したのはPL学園でした。当時、大阪はPL・清風・初芝・近大付属が鎗を削る4強時代。速く、強く、美しい剣道に憧れ、道場の先生にPL進学を相談に行ったところ、その場でどこかに電話をされました。先生が事情を話すうち電話の相手に公立ならどのくらいのレベルだと聞かれ、豊中高校ぐらい・・・と答えると、即座にそんなもん豊高に決まっとるわいっ!と一喝されて。

こうして私の人生の第一歩が決まった(決められた)のですが、あきらめたPL剣道部を育てたのは川上徳蔵先生で、私の進路を決めたのは井坂賢一郎先生だったとわかるのはずっと後のことで、つくづく豊高剣道にご縁を感じる次第です。

私の現役時代は40年前になりますが、中務秀夫先生が『剣道六十年史』編纂をすすめておられた頃で、豊高によく来られました。大先生なのに高校生相手でも丁寧に接される方で、膝が悪いからと面はつけられませんでした。我々の稽古を見ながら胴着姿でいつも素振りをされていました。稽古が終わり、挨拶にいくと細かい技術の話はされず、剣道は手の内の冴えが大事だよ、とだけ。武専では1～2年は朝から晩まで体当たりと切り返し、3年で懸り稽古が許され、地稽古ができるのは4年になってからだったよ、とにこにこしながら昔話をされたことが懐かしく思い出されます。

高校卒業後はしばらく剣道から離れていましたが、二人の娘が剣道を始めたのをきっかけに再開、その娘の付き添いで行った試合先で並河先輩にばったり出会い(見つかってしまい)、豊剣会にも顔を出せとの命令を受け、今では同期の井角(池端)さんと浅野(小林)さんの協力を得て(巻き込んで)、事務局のお手伝いをしています。30年後輩の高63期メンバーが近畿大会に団体出場したときは寄付を募って試合胴を揃えるプロジェクトを実行、事務局としても大いに盛り上がりました。

同期とはそれぞれ大学、就職で離れてしまい、今では関東進出組と関西残留組がほぼ半々でしょうか。関東組は遠いのでなかなか会えないし、関西組はいつでも会えるのでわざわざ会わないし、結局全然会ってない。40代後半に一度、32期+33期の10人ほどで飲み会を開催したときはとても楽しかったです。あれからもう10年以上たち、全員還暦も過ぎたことですしコロナが落ち着いたなら是非またやりたいですね。

清風高校での稽古会

世古 信三

高校34期



小生は高校でほぼ初心者として剣道を始めた。校門から校舎へつづくコンクリートの道で踏み込みの練習をしたことを覚えている。その頃は1学年上の太田先輩の代が非常に強かった。今でも試合のメンバーを覚えている。先鋒森山さん、次鋒三井さん、中堅深谷さん、副将末沢さん、大将太田さん。後輩の私が申し上げるのも僭越ではあるが、皆さんそれぞれ持ち味をお持ちでバランスのとれたよいチームだった。特に森山さんとはよく稽古をさせていただいた。ある日、先輩方が大阪府下でベスト8になられたことから、当時大阪府ではトップクラスであった清風高校への出稽古に招待され、小生もお伴させていただいた。その時、清風には強豪校が数校集まっていたと記憶している。私など相手にならないことはわかっていたが、練習試合に出させていただいた。

まさに秒殺であった。立った瞬間飛び込み面を決められ、これはいかんと思い面に飛んだところを胴に抜かれた。二太刀で四つ切りであった。

強烈な記憶として今も鮮烈に残っている。その悔しさから、進学した北海道大学でも剣道部に入部し、稽古に精励した。大して戦績は残せなかったが現在まで剣道を継続する礎となった。あの清風高校での四つ切りされた経験がすべてのスタートであった。

また、今でも継続されているかわからないが、その頃は北野高校との定期戦があり、それもよい思い出である。1学年上の北野高校の大将が小西さん、副将が森重さんであった。小西さんはその後、阪大の剣道部で活躍され、現在でも小生は、稽古をお願いしており、森重さんは小生と同じ北大に進学され長く懇意にさせていただいている。まさに交剣知愛である。

私たちの代は、大久保さんが主将であり、北摂大会には、大久保さん、武井さん、松下さんの3名で出場し、結構いいところまでいったと記憶している。小生の剣道は豊高剣道部とその後の北大剣道部で基礎がつくられたが、北大剣道部は今年から、全日本選手権者の栄花直輝先生を師範にお迎えし、益々稽古に熱が入っている。豊高剣道部の現役諸君も北大に進学して栄花先生のご指導を仰いでみては如何か。

小生、現在は、住友化学、小松製作所の稽古会、箕面剣友会、大阪剣道同好会を中心に稽古させていただいている。また、故小川忠太郎範士九段が禅の修行をされた人間禅での修行も30年以上継続している。剣と禅の道は深く険しいことを実感する日々です。



北摂剣道大会

新居 健司

高校35期



先日 豊中高校剣道部の100周年 祝賀会に参加いたしました。

顧問の園山先生や諸先輩、後輩のお話をうかがい、現役時代は豊剣会のみなさんからたくさんサポートをいただいていた事に改めて感謝しながら、やはり北摂剣道大会のことを思い出しました。

前年に優勝し、今年は35期が中心になって連覇を狙うが男子の目標でした。

色々と情報収集すると私学大会で好成績を残している福島商業(現履正社高校)が最大のライバル。キャプテンは私の小学校からの剣道仲間なのでお互い手の内はわかっている。きわめて接戦が予想される。その他4人の実力がわからない。みんなと相談して夏頃に練習試合を申し込みました。同校は男子校、こちらは共学。共学校と練習試合をしたことがないと喜んでこちらに来てくれました。そこで、しっかり同校の戦力分析。がっぷり四つに組むとどちらが勝つかわからないというのが結論。向こうは大将がもっとも強い。自信満々なので普通のオーダーで戦ってくると予想。そこで、大将の前の副将で勝負を決めるというのがみんなで考えた作戦でした。決勝まで予想外の苦戦を強いられながら勝ち上がりました。相手はやはり福島商業。出場メンバーの選抜、団体戦のオーダー等々部全員が優勝のためにそれぞれが我慢しながら持ち場、持ち場で全力を尽くしました。一生懸命稽古もしましたが、勝利のためにみんなで色んなことを考え実行した特別な優勝でした。

先日職場で競合先のベンチマークやった？最新の？と気になって聞いている自分がいました。「敵を知り己を知れば百戦危うからず」孫氏の兵法は高校2年のときから頭から離れないようです。

基礎基本をしっかり稽古した剣道部

曾和 昭文

高校37期



私は卒業しても剣道を続けていた。けれども、10年ほど稽古ができない時期があった。そんな時期思い出したのは高校時代の稽古や試合だった。

まず初めに思い出されるのは夏合宿である。1年生のとききつくてへろへろになった。今では笑えるが、栄養ドリンクをみんなで飲んで瓶をならべていた。稽古以外何か楽しさが欲しかったのかと・・・。

次は北摂剣道大会である。会場がどこか市立の体育館ではなく、豊高の体育館で行われた。学校で開催されているのでどうしても勝ちたいと思っていた。そして結果は優勝。この上なく気持ちよかったのを覚えている。

そして、薙刀部との試合もいい思い出である。いつも道場のとなりで薙刀部が稽古していた。夏休みだったかと思うが、薙刀部と試合することになった。楽勝かと思いきや間合いに入れず脛を叩かれ痛い思いをした。

いろいろ思い出されるが、何よりも普段の稽古が思い出される。毎日、繰り返し、かかり稽古。足の裏の皮がめくれながらも惰性になることなく一生懸命稽古した。今から思えば若いからできたのだと思う。

そして今。稽古ができる環境になったので、10年ぶりに稽古を再開できた。けれどもいざ再開してみると、体力は落ちているし、周りはみな上達していた。10年というブランクで取り残された気持ちが無いことはない。けれども、それ以上に稽古していることがすごく新鮮に感じた。面や籠手をきれいに一本とられても、稽古をしているという感じで、なぜか気持ちいいのである。身体的には稽古はきついが楽しめている。正直剣道をやめなくてよかったと思う。そう思えるのも、高校時代の普段の稽古によって、先輩や後輩、そして同期の仲間と一緒に稽古に励み、剣道部での培った基礎基本があればこそ今楽しめるのだと感じている。

今は遅くではあるが、楽しみながら六段目指して稽古に励んでいる。

語り継がれる大会

石塚 佳久

高校43期



豊中中学・豊中高校剣道部、創部100周年おめでとうございます。高校43期生一同、心よりお祝い申し上げます。

今回寄稿のお話をいただき、同期の部員たちと当時を振り返ると、出てくる話のほとんどが『あ～、1年生の時はよく走らされたよな～』でした(笑)

剣道部に入部したはずが陸上部かと思わせるぐらい、入部から3か月間の平日は高校の外周を、土曜日は箕面の滝へと、とにかく走りまくった事をよく覚えております。なので我々は高校卒業10周年企画として、みんなで剣道!ではなく、箕面の滝まで走りましたよ。

さて、寄稿のテーマを『語り継がれる大会』とさせていただきましたが、卒業してから3年が経った時、我々43期生～45期生までの部員及び現役生に『みんなで集まって剣道大会をしよう!』と呼びかけ、豊中高校柔剣道場に集合し『五世代戦』と銘打って、各期対抗の団体戦を開催いたしました。1993年6月9日、天皇徳仁さまと皇后雅子さまの結婚の儀のおめでたい日に開催した事を記憶しております。その大会がOB・OGの皆様方の目に留まり、翌年に第1回として開催されたのが現在の『豊剣杯争奪戦』です。その後は皆様方から多大なるご尽力を賜り、今もなお豊剣杯が継続している事を嬉しく思うと共に、第1回を企画した事を誇りに思っております。

個人的なお話しになりますが、私は現在も剣道を続けており、自分が育った豊中剣友会で子供達の指導をしております。2015年には剣道七段を取得いたしました。豊中市剣道協会の常任理事として、各種大会や審査会等の運営にも携わっております。北摂学校剣道大会の審判員を勤める事もあり、豊中高校剣道部の皆様の試合を拝見させていただき、とても勇気づけられております。

末筆ではございますが、豊中高校剣道部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

追伸 男子部室の『靴箱』は今もございますでしょうか。43期生の平岡が工芸の授業で作成したものです。



感謝

馬淵 敦士

高校46期



豊中高校剣道部の皆様、100周年おめでとうございます。この素晴らしい節目を迎えることができたこと、心よりお祝い申し上げます。

豊中高校剣道部の部長として、様々な思い出が甦りますが、どの出来事も「感謝」の言葉が口から離れません。顧問の高田先生をはじめ、先輩後輩そして同期の仲間たちに、支えられた日々を思い出します。

部員一人一人が個性を持ち、その個性をまとめることが大変な時もありましたが、みんなが協力し合い、最後まで一丸となって励み続けることができました。後輩へのバトンタッチも、同期の仲間たちが支えてくれたからこそ実現したことを、今でも強く感じます。

一番最後に入部した僕が、部長を務めることに不安を感じた時期もありましたが、今となってはその経験が財産となっています。この感謝の気持ちを忘れず、これからの人生も一步一步着実に歩み続けていきたいと思います。

豊中高校剣道部がこれからもますます輝きを放つことを祈り、心からお祝い申し上げます。

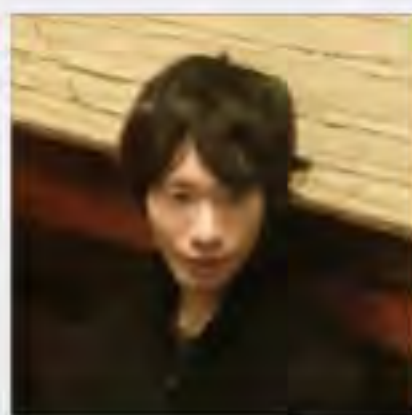


1993年3月卒業式・柔剣道場にて

剣道のために入学した豊中高校

高林 充祥

高校59期



この度は豊中中学・豊中高校剣道部100周年おめでとうございます。伝統ある豊中高校剣道部に入るために豊中高校に入学した卒業生として大変光栄に思います。

私自身は豊中高校へは中学1年生のときから1月2日の新年の初稽古に参加させていただいておりました。毎年、この日の稽古のために豊中高校関係者だけでなく多くの剣道家の方々が遠方からも稽古に来られるという伝統ある稽古会に参加させていただき、剣道の伝統のある豊中高校に惹かれ、入学したい一心で勉強に励みました。合格した後も入学式より前から春休みの稽古に参加させていただいておりました。

毎日剣道の日々でしたがその中でも特に思い出として残っているのが春の全国選抜予選の大阪府下新人大会です。他校との練習試合を重ねた結果ベスト8まで勝ち進むことができ、インターハイ予選におけるシード権を獲得しました。残念ながらその後のインターハイ予選では3回戦で負けてしまい近畿大会への出場は叶いませんでしたが、伝統ある豊中高校剣道部として、また、大阪府下ベスト8による大きな自信を持ってインターハイ予選に挑めたことは、今でも忘れられない思い出です。

毎日ただひたすら稽古の日々を過ごしていた高校時代を懐かしく思います。

伝統ある豊中高校剣道部の今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。



2014年豊中高等学校柔剣道場 大芝会長と稽古

『同期』の定義

矢倉 雄太

高校60期



この度、剣道部 100 周年記念誌の原稿執筆の機会を頂き、改めて当時のことを思い出しますと、嬉しかったこと、辛かったことなど様々な記憶が想起されるとともに、先生や先輩、同期、後輩への感謝の念が堪えません。

私たちが入学した際、日体大卒で七段をお持ちの前田良憲先生が豊中高校へ赴任されて数年が経ったことであり、指導者に恵まれておりました。懐の深い先輩方にも温かくしていただき、後輩にも恵まれた環境であったように感じます。

しかし、当時の剣道部は、大阪府下の大会でもせいぜい2～3回戦進出止まりで、個人的には満足のいくような成績を上げられておらず、焦りがありました。良い意味でのんびりとした環境のなか、どこか満足できないところもあったのです。1年生のころ、数名の同期と、稽古をサボって、保健室で「剣道部を辞めようか」と話し合ったことも、懐かしく思い出されます。

私たちの期が一番上の学年となり、私たちは、(日常的に仲良くつるむ必要はないが)「とにかく勝ちにこだわって稽古する」ということを共通認識とし、稽古に打ち込むスタイルを採りました。「ただ楽しく剣道をすること」を止めたのです。

同目的実現の過程で、時には自分に甘くなってしまう私に対し、本気で厳しく言ってくれる同期もありました。同期の厳しくも愛のある言葉やサポートのおかげ、部長職も無事に勤め上げることができたと、当時から感謝しております。

このような努力もあってか、私たちの代は、北摂学校剣道大会において、雲雀丘学園高校を準々決勝にて下し、決勝で履正社高校に敗れたものの、「準優勝」という成果を上げることができました。

私にとって、同期は、「仲間」という易しいものではなく、苦しい時期を共に乗り越えた「戦友」です。

卒業後まもなく、同期から「仲間だと思っている」と言われた際、私は「仲間だとは思っていない」と言ってしまったことがあります。それは「仲間」などと易しいものではなく、戦友ともいべき特別な感情があったからです。しかし、なぜあの時、「そうではなく、戦友だと思っている」と一言付け加えなかったのか、言葉足らずであったと後悔しています。

早いもので高校卒業から 15 年という時が経ちました。今思い返しても豊中高校剣道部の毎日は、嬉しいことも、辛いことも、多くの経験を与えてくれたかけがいのない時間です。

豊中高校剣道部に所属し、前田先生にご指導いただき、先輩や同期、後輩と貴重な時間を過ごせたことは、今も私の誇りです。

実技指導顧問不在の時代

高田 裕文

顧問在任期間 1991年4月～2000年3月



園山先生の異動に替って '91 年春豊高に着任し、以前から豊剣会に関わっていたこともあり、早速剣道部顧問となった。多くの顧問が私を支えてくださった中でも、同年着任の故山崎一先生が(剣道はされていなかった)、私と二人三脚で合宿その他で随分面倒を見ていただいた。私が腰を痛め剣道から遠ざかっていたことなどから、実技指導は故西村氏(会長)・故豊田氏・今西氏・大芝利文氏・現会長の大芝信雄氏をはじめとする、熱心なOB・OG(豊剣会会員)に頼っていた。という訳で、今でもこの時代の部員達には申し訳ない想いでいる。

しかし着任早々驚いたのは現役部員の実力の高さである。女性もレベルが高く、ある部員は大柄ながら実に俊敏性の高いセンスの良さをを見せていた。初心者で、1年時は「どうなるか」と思うほど習得のできない部員もいたが、2年になると見違えるようにうまくなっていた。その後も、技術力だけでなく人間としても質の高い部員が続いたことによって、私の無力を補ってくれたうえ、豊高剣道部の強さを維持できた。2000(平成12)年4月の私の離任後も、山崎先生が中心顧問として熱心に指導されていた。

現役とOBとの「交流試合」は以前から自主的に行われていたが、西村氏が1995(平成7)年に第1回「豊剣杯争奪大会」を、故中務(前年ご逝去)・川上・井坂他の各先生の慰霊を行うため豊剣会として実施した。まずご遺族をお招きして「追悼の式辞」の後、今西氏を中心として「古武道演技」を行った。その後「豊剣杯争奪大会」に「懇親会」を併せて行ったが、以後、二月発行の「豊剣会だより」と三月の「豊剣杯争奪大会・総会懇親会」を結びつけ実施するようになり、これは現在まで続く豊高剣道部と豊剣会との伝統的行事となっている。

顧問在任中、(熱意の表れと思うが)部員から「早朝練習・土日の練習」を要求された。私は「放課後練習をもっと密度の濃いものにすることが先決、それができるまでは認めない」と言い抜いた。これには賛否両論があると思う。ただ反面、現在の剣道部のように、多くの他校との交流練習・試合を進めなかった点は、私の反省すべき点であった。

エピソードの最後に、豊高が進学校ということもあって、剣道部員は2年生の1月の大会で引退していた。私は「あまりに早い引退だ、練習で時間が取られても、残りの時間に集中力有る勉強をすれば問題ない」と思い、部員の了解を得て3年生のインターハイ予選まで残るようにした。これも現在まで続いている。

正思剣道大会の記録から辿る豊中高校剣道部の歴史

池内 遼太郎

顧問在任期間 2010年4月～2017年3月



私が豊中高校に赴任した 2010 年 4 月から早いもので 12 年経ちました。沢山稽古を重ねた結果、この 12 年間でこれだけの名前を見つけることができました。

第67回	平成20年8月		男子個人	田村
第69回	平成21年8月	男子団体優 勝	男子個人	宮入・田村
第70回	平成21年11月	男子団体ベスト4		
		女子団体準優勝	女子個人	川治
第73回	平成23年8月	男子団体ベスト4	男子個人	中本
第78回	平成25年8月	男子団体ベスト4	男子個人	林
第83回	平成28年5月	男子団体ベスト4	男子個人	藤野
第84回	平成28年11月	男子団体ベスト4		
第91回	令和3年3月	男子団体準優勝	男子個人	神原
第92回	令和3年8月		男子個人	藤田
第93回	令和4年3月	男子団体ベスト4	男子個人	神原
第95回	令和4年11月	男子団体ベスト4	男子個人	瀬戸

正思剣道大会の記録より

勿論、ここに名前が載っていない OB・OG のことも鮮明に覚えています。公立校大会、インターハイ予選、大阪総体、新人戦と記録には残りませんが、熱い試合を沢山側で見させてもらいました。みんなそれぞれが互いに切磋琢磨し、日々の厳しい稽古を共に耐え抜いてきた結果だと思っています。そんな中でも大学に入ってから部活やサークルで続けていたり、社会人になっても仕事をしながら稽古をしている OB・OG らとは今でも付き合いがあり、大変嬉しく思っております。（気づけばそんな彼ら彼女らも 20～30 歳になっており、自分がいつまでも若くないことを痛感させられます。）

先輩方が道場で培われた豊剣魂は現部員らにもしっかり受け継がれており、今後更なる活躍を見せてくれるものと確信しています。末筆ではございますが、豊中高校剣道部 OB・OG 会の益々のご活躍を祈念しております。



2022年11月 76期主将の瀬戸君との稽古の様子



2012年3月 懇親会のようす

恩師との出会い：教育者としての新たな一歩

田中 裕二郎

顧問在任期間 2000年4月～



高校時代のクラブ紹介の日、私は剣道という武道に心を奪われ、それが私の生涯における深い足跡となった。学生時代には3年間、部員として剣道部に所属し、その後3年間は教員として、現在に至るまでその指導に従事している。今回は、この過程で培われた経験や感謝の念を述べていこうと思う。

剣道場に足を踏み入れたのは、先輩の巧みな誘いによるものであった。竹刀を持たされ何回か振るように言われ、「才能があると」と言われた。その気になって、気づけばその日から毎日昼で竹刀を振っていた。今考えてみれば、なんとも間抜けな奴である。入部当初、練習は楽しいものであった。初心者だった私は、素振りと足運び中心の練習に取り組んでおり、小学校・中学校と野球部に所属していた私にとって、その頃の練習は全く厳しいものではなかった。しかし、面をつけ始めた途端、汗が噴き出すほどの厳しい稽古が待ち構えていた。

本当にしんどかった。今振り返ると、正直何度も練習を休もうと思った瞬間があった。そんな時に、心の支えになったものは、この厳しさを理解し、克服するために私を導いてくれた、上林先生と池内先生である。上林先生は私に剣道の技術だけでなく、人間としての在り方についても深く教えてくれた。彼の口癖である「人間は総合力。剣道だけできてもだめだ」という言葉は、いつのまにか私の中で生きる指針となった。現役時代、結果は全く残すことはできず、敢え無く引退することとなったが、得られたものは数えきれない。

教員に転身してからは、当時の恩返しを、豊中高校剣道部の指導を始めた。高校時代にお世話になった上林先生と一緒に仕事ができるのは、なんとも感慨深いものである。池内先生はすでに他の高校へ転勤されていたが、今でも私のことを気にかけてくださっており、「与えてもらうのは学生まで。これからは何かを与える人間にならなければならない」という先生からの指摘は、私が教員としてまだまだ未熟であると痛感させ、「教育」という舞台に立つことの責任を再確認させた。

学生時代の先輩、同期、後輩たちが今でも豊中高校の剣道場に訪れ、そのつながりを大切にしてくれていることは、私にとって大きな励みである。学生時代に培った経験と知識を胸に、これからはその恩返しとなるような指導者であり続けたいと思う。これからも教職に身を置きながら、学生たちに真摯に向き合い、彼らが成長し、社会に貢献できるような支援を続けていきたい。剣道が教えてくれた価値観と、それを実践するための使命感を胸に、新たな一歩を踏み出していく覚悟である。

北摂大会優勝について

文 島村 宏二 高校30期

北摂学校剣道大会の出発は、池田市に所在し、地域情報紙であった北摂朝日新聞社横山精三社長の献身的な努力による各関係機関への働きかけと、剣道愛好家の方々の支援により、昭和33年11月2日に池田市立池田中学校に於いて第一回大会が開催され、高校生は大阪府の豊能地区、三島地区の13校28チーム、中学生は兵庫県の川西市を含む8校8チーム、小学生は2校2チームの参加で開催されました。

現在では延べ180校を超える盛況で地域剣道大会としては大きな大会として注目されています。

[中略] 経営面では、当初は横山精三氏や他の方々のご助力に依っていましたが、第19回大会を前に横山氏の逝去に遭い運営上の不安を生じましたが、新たに理事会が組織され、剣道愛好家の諸先生方、豊剣会(豊中高校剣道部OB会)、阪急百貨店等のご援助で続けられました。しかし、諸先輩方の相次ぐ逝去に伴い、またもや不安定な状態が続きました。第31回大会より参加校から大会参加費を徴収せざるを得なくなり、また第37回大会からは私立学校、各高校剣道部OB会、多くの企業等の広告協賛、そして、池田・豊中・箕面の三市や近隣市町の剣道協会剣道愛好家の個人賛助金等で今日まで大会が続けられています。

[中略] このように北摂学校剣道大会は地域剣道愛好家や学校剣道指導者の情熱と努力によって60回という歴史を重ねて参りました。本大会をご支援いただいた各先生及び各関係者への感謝をもって永く大会の継続を願うものであります。

過去に御助力いただいた先輩先生方

井坂 賢一郎	豊中市剣道協会
中務 秀夫	豊中市剣道協会
山崎 守	大阪府剣道連盟事務局
千野 辰寿	西野田工業高校
西村 淳一	豊剣会
谷口 眞澄	豊中市剣道協会



<http://hokusetsukendo.web.fc2.com/ayumi.html>

※以上の文章は北摂学校剣道大会の「大会の歩み」より引用しています。

※個人戦に関してはこの記事では割愛させていただきます。

豊中高校の優勝は女子では、第18回大会、高29期(加藤尋子先輩ら)を中心とするチームの1度だけである。男子では第4回大会、高16期の大芝信雄先輩(現豊剣会会長)らによる初優勝ののち、第19回大会で、私たち高30期が15年ぶり2回目の優勝、翌第20回大会で高31期(主将は井上敏範氏)が連覇、第23回大会で高34期(主将は大久保満氏)、第24回大会で高35期(主将は新居健司氏)、第25回大会で高36期(主将は浦西修氏)が3連覇と、実に7年間で5回の優勝を遂げたが、その後40年、優勝から遠ざかっている。

第4回 昭和36年(1961)

男子優勝

第18回 昭和50年(1975)

女子優勝

第19回 昭和51年(1976)

男子優勝

第20回 昭和52年(1977)

男子優勝

第23回 昭和55年(1980)

男子優勝

第24回 昭和56年(1981)

男子優勝

第25回 昭和57年(1982)

男子優勝

第19回 北摂学校剣道大会

箕面学園高等学校体育館

1976年(昭和51年)11月14日

昭和56年(1981年)2月に豊剣会より刊行された『豊中中学校 豊中高等学校 剣道六十年史』誌上に、坂井剛太郎氏(高30期)が寄稿した第19回の戦績が掲載されている。一部加筆訂正して引用する。

		先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
1回戦	豊中	戸村 ドコ	大西博 ドコ	石橋	大西寛	島村 メ
	北陽	根来	鹿本	船岡	野村	山内
2回戦	豊中	戸村 メ	大西博 メ	石橋	大西寛	島村 メコ
	追手門	メ池原	メ中村	山崎	コ布施野	阪上
準々決勝	豊中	戸村 メ	大西博 コド	石橋	大西寛	島村 コメ
	北野	苗村	小安	メコ森山	メメ富沢	時岡
準決勝	豊中	戸村	大西博	石橋 ココ	大西寛	島村 メ
	高槻南	森	光沢	三浦	コ反岩佐	前島
決勝	豊中	戸村 メ	大西博 メ	石橋 メ	大西寛 コ	島村 メ
	北淀	ド山本	コ阿波	コ山下	ド佐藤	西村

代表戦

代表戦

今回この稿を書くにあたって、同期の方々から情報を寄せていただいたが、それも含めて、いくつかのエピソードを紹介する。

決勝戦以前のある試合中、厳しい顔つきになのか、激しい体当たりになのか、勝手に相手が腹を立ててしまったらしく、試合後に某所に呼び出して因縁をつけてくるという、誠にくだらない所業があったようだが、我が方の当事者は全く激することも、阿ることもせず、落ち着き払った態度で通したとか。当該の試合は引き分けであったが、試合場外での番外編の攻防は完勝したということ。古き良き時代である。

決勝戦は、5人全員がそれぞれ3分の試合時間を全て使い切り、さらに代表者戦の3分と、1分刻みの延長が4回。途中、時計も度々止められるので、延べ30分を超えたと思われる長い試合になった。正座して応援していた控えや先に試合を終えていた選手は、脚が痺れてしまい、優勝が決まった瞬間、立ち上がろうとしても脚が言うことを聞かず、よろめいたり転んだり、嬉しいやら恥ずかしいやらで、泣き笑いのようにになっていた人もいたとのこと。

大会数日後、当日は控えであったある選手が、部誌(同学年の全部員が順にノートを回して自由に書くもの)に、「島村が優勝を賭けて戦っているときも、『おそらく勝つだろうな…この5人の中のどこかに自分がいても不思議ではないな…』と、いやに冷めていた…」と、書いていて、それを読んだ私は、小さくはない衝撃を受けた。9人の男子部員の中から5人を選出する方法は、当然のように先輩の代のやり方に倣い、皆が納得しているものと疑わなかったが、選ばれた側にいた自分は、選ばれなかった人の気持ちに、十分に思いを致していたと言えるのか。ましてや、部員からの信に応えねばならない主将として、どうだったのか。彼が書いた言葉を今も鮮明に覚えているということは、その自問に対する答えは、まだ出ていないというべきか、すでに出ているというべきか…。

豊中中学校・高等学校剣道部発展年表

1921 大正10年

豊中高校

9月12日 大阪府立豊中中学校創設

1922 大正11年

豊中剣道部

10月2日 校舎が豊中に移り豊中中学に。剣道部創設。

1923 大正12年

豊中剣道部

1月10日 第一回寒稽古。

1945 昭和20年

この年の主な出来事

8月 終戦

豊中剣道部

11月 剣道禁止の次官通達。これより剣道部としての活動は停止。

1948 昭和23年

豊中高校

4月28日 学制改革により豊中高等学校へ。

1952 昭和27年

豊中剣道部

6月 しない競技部の結成。11月に自治会で正式に部を承認。

1961 昭和36年

豊中高校

4月 1948年から男子帽章・女子胸章を配布されていたが、標準服がこの月1年次より制定

1965 昭和40年

豊中剣道部

6月1日 "豊剣会会則"発行。翌年より豊剣会が発足。

1967 昭和42年

豊中剣道部

5月14日 神戸護国神社にて剣道部関係物故者慰霊祭。

1922-1985

剣道部六十年史刊行



剣道部六十年史完成時に当時の会長が
購入者にあてた添え文





高校 38 期



高校 39 期



高校 40 期



高校 41 期



高校 42 期

1989 昭和64年
平成元年

この年の主な出来事

昭和天皇崩御により、元号を平成に

豊中高校

1980 年代より日常的な生活基準がルーズな時代となり、服装基準を逸脱する生徒が目立ち、生活指導係より生徒に自覚を促す呼びかけが行われた。その後、豊中第11中学校など服装自由化の動きが始まり、49 期生の年に教育課程の刷新があり、1995 年標準服は残すが、着用義務はなくすこととなった。

引用 豊陵会報 vol.106 2023.06発行

1990 平成2年

豊高剣道部

豊剣会だより第 1 号発行



豊剣会だより第 1 号草稿原稿(コピー)

1995 平成7年

豊高剣道部

3月26日 第1回豊剣杯争奪大会開催



大会来賓席にて



北摂古武道会による古武道演武(巻藁・青竹)



懇親会、「質実剛健」の手ぬぐいを見る

故 中務秀夫先生追悼
第1回「豊剣杯争奪大会」ご案内

会員各位
阪神大震災被災の皆様に心よりお見舞い申し上げます。
さて今般、昨年5月7日に逝去されました前会長中務先生を
偲ぶ追悼の会挙行と共に、物故師範剣友方を追悼記念した
「豊剣杯争奪大会」と銘打つ会の第1回を、下記要領により
開催する運びとなりました。此にご案内申し上げます。
この大会は、若いOB諸君の豊剣会への新入会を歓迎する
意味も込め、毎年恒例の大会として、新旧合い和す盛大な
豊剣会行事にぜひ育て上げたいと切に願っております。
尚、追悼の会では、併せて故川上、井坂両師範及び数多く
の物故剣友の慰霊も兼ねたいと存じておりますので、万障
お繰り合わせの上ご出席の程伏してお願い申し上げます。

豊剣会 会長 西村 淳一

記

日時 平成7年3月26日(日) 午前9時～
場所 豊中高校 柔剣道場
要領 1. 開会及び追悼の式辞
2. 古武道演技(北摂古武道会の先生方による)
●兵法二天一流剣術ノ形 ●宝蔵院流槍術ノ形
●風伝流槍術ノ形 ●日本刀試斬(巻ワラ、青竹)
3. 豊剣杯争奪大会(及び試合後に合同稽古)
●各期OB及び在校生チームによる団体対抗戦
4. 親睦会(於:3階会議室、午後1時～3時予定)
会費 ￥2,000(一口) 学生は不要
出欠 準備の都合上、お返事は3月10日迄に願います。

届けられた案内状



高校43期



高校44期



高校45期



高校46期



高校47期

5661-9861

1995 平成7年

豊高剣道部

1月 北摂学校剣道大会 女子団体3位

この年の主な出来事

1月17日 阪神・淡路大震災



高校 48 期



高校 49 期



高校 50 期



高校 51 期



高校 52 期



2000年3月 第6回豊剣杯争奪会



(平成6年3月1日現在)



2004 平成16年 豊高剣道部

11月 正思剣道大会 女子団体優勝
(杉田、石橋、西田、横山、北川)



高校 53 期

2005 平成17年 豊高剣道部

11月 大阪高等学校新人大会
男子団体BEST 8
(南、草野、正殿、矢倉、高林)



高校 54 期

2006 平成18年 豊高剣道部

12月 北摂学校剣道大会
男子団体準優勝



高校 55 期



2007年3月 第13回豊剣杯争奪会



高校 56 期



2009年3月 前田良憲元顧問と高田裕文元顧問



高校 57 期

2009 平成21年

豊高剣道部

8月 正思剣道大会
11月 正思剣道大会

男子団体優勝
女子団体準優勝
男子団体3位

2010 平成22年

豊中高校

8月28日 正門を銀杏を意匠したものに改装



豊高剣道部

1月 大阪高等学校新人大会
男子団体BEST 8

6月 全国高校総体大阪府予選
男子団体BEST 8
男子個人BEST 8
田村浩輝

7月 近畿高等学校剣道大会
男子団体出場



2010年3月 第16回豊剣杯争奪会で試合を観る



高校 58 期



高校 59 期



高校 60 期



高校 61 期



高校 62 期

2011 平成23年

この年の主な出来事

3月11日 東日本大震災

豊中高校

制服の改定



引用 豊陵会報 第91号

豊高剣道部

6月 全国高校総体大阪府予選
男子個人BEST 8 安良田瞭



高校 63 期



高校 64 期



高校 65 期



高校 66 期



高校 67 期

2013 平成25年

豊高剣道部

9月30日 豊剣会ホームページ開設
<http://houkenkai.g2.xrea.com>



豊高剣道部

11月 正思剣道大会 男子団体 3 位

2016 平成28年

豊高剣道部

5月 正思剣道大会 男子団体 3 位
11月 正思剣道大会 男子団体 3 位

2017 平成29年

豊高剣道部

6月 全国高校総体大阪府予選
女子個人BEST 8 川北百花



高校 68 期



高校 69 期



高校 70 期



高校 71 期



高校 74 期

72期と73期は入部部員なし



上林 卓也元顧問 2017年3月 豊剣会懇親会にて

2018 平成30年



豊中 高校



近畿地方を襲った台風 21 号の暴風により樹齢百年のヒマラヤ杉が倒壊。このヒマラヤ杉は旧制豊中中学校創立 2 年後の 1923(大正 12) 年に旧校舎玄関両脇に植えられた 2 本のうちの 1 本。1971(昭和 46) 年の校舎改築に際、2 本のヒマラヤ杉は正門の両側に移植され、北側の 1 本はまもなく枯朽。49 期生が 1994(平成 6) 年にその跡に 2 代目を記念植樹。百年近くに及ぶ豊中・豊高生見守りの役を終える。

引用 豊中高校ホームページ「校長室から」

https://www.osaka-c.ed.jp/blog/toyonaka/toyo_koukai/2022/02/22-202330.html



2019 平成31年
令和元年

この年の主な出来事

5月1日 天皇退位により元号が令和に

2020 令和2年

この年の主な出来事

新型コロナウイルスが世界的蔓延。
政府が緊急事態宣言を発令。

豊高剣道部

第26回杯争奪大会および懇親会を中止

2021 令和3年

豊中高校

台風で倒壊した2代目ヒマラヤ杉跡地に
3代目ヒマラヤ杉を植樹

豊高剣道部

第27回杯争奪大会および懇親会を中止
3月 正思剣道大会 男子団体 準優勝



引用 豊中高校ホームページ「校長室から」
https://www.osaka-c.ed.jp/blog/toyonaka/toyo_koukai/2021/03/05-184623.html

2022 令和4年

豊高剣道部

第28回杯争奪大会および懇親会を中止

1月 大阪高等学校新人大会 男子個人3位 藤田 航

4月 大阪府公立校大会 優勝

6月 全国高校総体大阪府予選 男子個人3位 神原 康佑

のち7月の近畿高等学校剣道大会出場

7月 懇親会代替稽古



2023 令和5年

豊高剣道部

3月25日 第29回杯争奪大会および懇親会および100周年記念式典開催

12月22日 100周年記念誌作成



2017-2023

編集スタッフ

高18期 松村 栄太郎
高29期 並河 徹也
高30期 島村 宏二
高33期 太田 哲也
高33期 井角 江美子
高33期 浅野 潤子
高63期 田村 浩輝
高66期 高嶋 勇
高67期 田中 裕二郎

令和5年12月20日発行

発刊者 豊剣会事務局

制 作 夕陽丘グラフィックデザイン

印刷所 印刷屋さんドットコム（運営：株式会社マツイ印刷）

<http://www.insatsuyasan.com>

〒911-0034 福井県勝山市滝波町1丁目607-2

TEL:0779-69-1011 FAX:0779-88-0444

豊中中学校
豊中高等学校

豊剣会

豊中中学校・高校剣道部 OB・OG 会

100周年記念誌

豊剣杯争奪剣道大会 百周年記念祝賀会